

インクルージョン推進調査特別委員会 活動報告(骨子案)

【目次】

1	付託調査事件	P
2	建議理由	P
3	活動方針	P
4	重点調査項目	P
5	スケジュール	P
6	調査経過	P
7	提言	P
8	委員構成	P

1 付託調査事件

令和3年第2回臨時会で特別委員会の設置を建議した際の付託調査事件を記載する。

インクルージョンの推進に関する調査

2 建議理由

令和3年第2回臨時会で特別委員会の設置を建議した際の建議理由を記載する。

昨今、我が国では、ダイバーシティ&インクルージョンという言葉が認知され始め、多様性を理解し、お互いに認め合うことで、ともに成長し個々の能力を活用できる社会の実現が求められている。そうした中で、障がい福祉を取り巻く環境は、高齢化や障がいの重度化、発達障がい、医療的ケア児等の特性に応じた切れ目のない支援が求められており、重要な課題の一つとなっている。

日本は、平成26年1月に障がい者に関する初めての国際条約である障害者権利条約を批准し、教育、保健、労働・雇用の権利、社会保障等、様々な分野において国内法令等の整備を進めてきた。平成28年6月には、児童福祉法の改正により障がい児のサービスに係る提供体制の計画的な構築を推進するため、障害児福祉計画の策定が各自治体に義務付けられることになり、区においても第2期障がい児福祉計画を令和3年2月に策定した。

また、厚生労働省は、令和3年3月1日から障がい者の法定雇用率を変更し、民間企業については2.3%へ、国・地方公共団体等は2.6%へと、それぞれ0.1ポイントの引き上げを行った。

このような社会状況の変化の中で、区が令和2年2月から3月にかけて実施した板橋区障がい者実態調査によると、「障がい者施策を進めるために充実させるべき取組」の設問においては、「障がいのある子どもたちの可能性を伸ばす教育を進めること」や「障がいのある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」と回答した人の割合が高くなっている。

乳幼児期においては、障害者手帳の有無に関わらず、発達障がい等への支援を必要とする子どもがいることを踏まえ、関係機関の連携・協力体制を構築し、子ども及びその保護者に対して適切な支援を提供していく必要がある。

また、学齢期においては、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学び、その能力や可能性を最大限に伸ばすことができる環境の整備が求められている。

加えて、就職期においては、障がい特性を踏まえた多様な仕事や就労形態の創出が必要であり、各ライフステージにおいて成長に応じた切れ目のない支援を図ることが重要となる。

議会としては、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念のもと、障がいのある人とない人が、相互に人格と個性を尊重しあい、ともに支えあいながらくらすことができる地域共生社会の実現に向けて調査を行う必要がある。

令和3年5月21日建議

3 活動方針

令和3年第2回定例会で決定した本委員会の活動方針を記載する。

「誰一人取り残さない」というSDGsの理念のもと、障がいのある人とない人が、相互に人格と個性を尊重しあい、ともに支えあいながらくらすことができる地域共生社会の実現について調査・提言を行う。

4 重点調査項目

令和3年第2回定例会で決定した重点調査項目を記載する。

- 1 乳幼児期における特別な支援を必要とする子ども及びその保護者への支援について
- 2 インクルーシブ教育の推進について
- 3 障がい特性を踏まえた多様な仕事のあり方や就労支援について

5 スケジュール

決定した活動方針・重点調査項目をもとに、令和3年第3回定例会の特別委員会において2年間の調査スケジュールを以下のとおり決定した。

		令和3年度 (2021年度)			令和4年度 (2022年度)		
		3定	4定	1定	2定 ^{※1}	3定	4定
重点調査項目	1 乳幼児期における特別な支援を必要とする子ども及びその保護者への支援について	特別な支援を必要とする子どもへの支援について	当事者家族に対する障がい理解の促進について				特別委員会の調査経過や執行機関側の事業の進捗状況に応じて、令和4年の第3回定例会において、令和5年第1回定例会での活動報告の最終的なまとめに向けて、4定、1定の調査事項を設定する。
	2 インクルーシブ教育の推進について		周閉に対する障がい理解の促進について	インクルーシブ教育の推進に向けた環境整備について(視察も検討) ^{※2}			
	3 障がい特性を踏まえた多様な仕事のあり方や就労支援について					多様な仕事のあり方や就労支援について	
報告事項	○関連する報告事項があった場合は、適宜、報告を受ける。						
提言の検討	○議題に対する意見 ○前回意見の確認		検討サイクル		検討サイクル		検討サイクル
活動報告					○活動報告骨子(案)の確認	○活動報告(案)の確認	○2年間の検討を踏まえた最終調整を行う 活動報告完成

※1 特別委員会の調査経過や執行機関側の事業の進捗状況に応じて、3定以降の調査スケジュールの時点調整を行う。

※2 視察については、閉会中に行くことも考慮し、調整する。

6 調査経過

開催年月日	調査事項等
令和3年 5月21日(金)	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長等の互選について
6月14日(月)	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある子どもへの支援の現状について ・障がい者への就労支援の現状について
10月4日(月)	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする子どもへの支援について
12月7日(火)	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者家族に対する理解の促進について
令和4年 2月24日(木)	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲に対する障がい理解の促進について
5月23日(月)	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長等の互選について
6月16日(木)	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育の推進に向けた環境整備について
10月4日(火)	<p>視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい特性を踏まえた雇用のあり方について <p>視察先：東京都チャレンジドプラストッパン株式会社</p> <p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告（骨子案）について
12月9日(金) (想定案)	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な仕事のあり方や就労支援について ・活動報告（素案）について
令和5年 2月22日(水) (想定案)	<p>議題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動報告（案）について ・委員会の結了について

7 提言

特別委員会として決定した重点調査項目における提言は以下のとおりである。

重点調査項目1 乳幼児期における特別な支援を必要とする子ども及びその保護者への支援について

背景・課題

I ○○○○について

【○○○○○○】

- ○○○○○○○○○○○○○

- ○○○○○○○○○○○○○

委員意見概要等から委員会として合意し、提言する内容を箇条書きで記載する。

II ○○○○について

【○○○○○○】

- ○○○○○○○○○○○○○

- ○○○○○○○○○○○○○

重点調査項目2 インクルーシブ教育の推進について

背景・課題

I ○○○○について

【○○○○○○】

- ○○○○○○○○○○○○○○

- ○○○○○○○○○○○○○○

委員意見概要等から委員会として合意し、提言する内容を箇条書きで記載する。

II ○○○○について

【○○○○○○】

- ○○○○○○○○○○○○○○

- ○○○○○○○○○○○○○○

重点調査項目3 障がい特性を踏まえた多様な仕事のあり方や就労支援について

背景・課題

I ○○○○について

【○○○○○○】

- ○○○○○○○○○○○○○○

- ○○○○○○○○○○○○○○

委員意見概要等から委員会として合意し、提言する内容を箇条書きで記載する。

II ○○○○について

【○○○○○○】

- ○○○○○○○○○○○○○○

- ○○○○○○○○○○○○○○

8 委員構成

	<令和3年度>	<令和4年度>
委員長	間中りんぺい	いわい 桐子
副委員長	さかまき常行	渡辺よしてる
理事委員	中村とらあき 荒川 なお 渡辺よしてる	小野田みか 石川すみえ しば佳代子
委員	小野田みか いわい 桐子 いしだ圭一郎 五十嵐やす子 しば佳代子 井上 温子 佐々木としたか	中村とらあき 間中りんぺい さかまき常行 荒川 なお いしだ圭一郎 井上 温子 佐々木としたか